

## J-SLA Newsletter 2012 年秋号

J-SLA 会員のみなさま、

一日ごとに秋の色が濃くなっておりますが、いかがお過ごしでしょうか。今日は「秋の研修会」のご報告と、「学会誌のアーカイブ化」そして「第 13 回年次大会の発表募集」のお知らせです。

### ご報告

2012 年度 J-SLA 秋の研修会が、10 月 28 日(日)に中央大学後楽園キャンパスで開催されました。3 名の研究者に、それぞれの研究テーマやこれまでの研究成果について、講演をしていただきました。どれも非常に興味深い研究で、質疑応答も活発に行われ、大変有意義な一日でした。

澤崎宏一 氏 (静岡県立大学)

『日本語文処理について—L1 と L2 の関係節処理を中心に—』

寺尾康氏 (静岡県立大学)

『言い間違いの多様性と普遍性—言語産出モデル構築への覚え書き—』

吉村紀子 氏 (静岡県立大学)

『英語の過去と現在完了の習得—産出と解釈の資料分析』

### お知らせ

#### 1. 学会誌 Second Language アーカイブ化

学会誌『Second Language』の 1 号から 6 号までがアーカイブ化されました。以下の URL でご覧になれます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/secondlanguage2002/-char/ja/>

※ 現在、7 号は公開制限のため公開保留になっています。来年 6 月に公開されます。

#### 2. 第 13 回年次大会 (J-SLA 2013) 発表者募集

日時：2013 年 6 月 1 日 (土)・2 日 (日)

場所：中央大学 (多摩キャンパス)

招待講演： Susan M. Gass (Michigan State University)

J-SLA2013 での研究発表を募集します。研究発表には「口頭発表」または「ポスター発表」および「学生ワークショップにおける口頭発表」があります。発表を希望される方は、以下の要領で、

ご応募ください。積極的なご応募をお待ちしています。

---

★「口頭発表」または「ポスター発表」について（「学生ワークショップにおける口頭発表」については、この下をご覧ください。）

1. 応募資格

応募者は、2013 年 6 月 1 日の時点で J-SLA の会員でなければならない。ただし、共同発表者については、会員でなくてもよい。

2. 募集する研究の領域

第二言語習得の理論的・実証的研究（学会発足の趣旨を参照してください。）

3. 申し込み方法

以下の要領で発表要旨を電子メールで送付する。

件名は「J-SLA2013 abstract」とする

送付先：[bannai@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:bannai@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp)（坂内 昌徳）

発表要旨は、必ず以下の二点を添付ファイルでお送りください。

① 指定の書式に従った発表要旨を **WORD** のフォーマットで保存したもの

② 指定の書式に従った発表要旨を **PDF** で保存したもの

＊不備がある場合、審査に時間を要し結果報告などが遅れることにもなりますので、必ず両方をお送りください。

4. 締め切り

2013 年 1 月 31 日(木)

5. 審査結果の発表

2013 年 2 月末ごろまでに、本人にメールにて報告する。

6. 口頭発表の時間について

口頭発表は 30 分で行うこととし、その後に 10 分間の質疑応答の時間を設ける。

7. 使用言語：日本語または英語

8. 「口頭発表」、「ポスター発表」とも代理発表は認めない。

9. 「口頭発表」は、個人研究・共同研究に関わらず、応募者ひとりについて一件とする。ただし、「ポスター発表」、「学生ワークショップ」（学生会員のみ）への同時応募はさまたげない。その場合、発表内容は異なること。

10. 要旨の書式

(1) 英語のフォントは Century 10.5 pt、日本語のフォントは MS 明朝 10.5 pt を使う。

(2) 発表の言語と要旨に使用する言語を同一にする。

(3) 要旨の長さについては、日本語の場合には 1600 字以内、英語の場合には 1000 words 以内とする。なお、図や表を加えてもよいが、最終的な原稿が A4 で 2 枚に収まるようにする。

(4) 以下の希望（イ～ハ）の内のいずれを選択するかを明記する。

イ. 口頭発表のみを希望する。

ロ. ポスター発表のみを希望する。

ハ、口頭発表を希望するが（選考の結果）口頭発表できない場合には、ポスター発表を希望する。

- (5) 日本語と英語のタイトルを、要旨の最初の部分に記入する。
- (6) 氏名については、審査を無記名の状態で行う必要があるため、要旨には記入しない。
- (7) 「要旨」の最後の部分に、それぞれの長さ（日本語の場合：文字数、英語の場合：語数）を記入する。
- (8) 添付ファイル送付のさい、電子メールの本文に以下のことを明記してください。
  - \*氏名（日本語）\*氏名（英語）\*所属（日本語）\*所属（英語）
  - \*郵便番号 \*住所 \*電話番号 \*電子メールアドレス
  - \*発表言語（日本語か英語のいずれか）

<その他の問い合わせ先>

J-SLA 事務局 柴田 美紀 shibatam@hiroshima-u.ac.jp

電話：(082)424-6430

---

#### ★「学生ワークショップにおける口頭発表」について

学生ワークショップは、第二言語習得研究を行っている大学生・大学院生のためのワークショップで、大会第1日目の午前中に行います。このワークショップは、なるべく多くの人に発表してもらうため、いくつかのセッションを並行して行います。また、各セッションにはその分野の専門の研究者が参加して、助言を行います。発表内容は、現在進行中の研究についてでも構いません。他大学の学生との意見交換を通して、研究の幅を広げましょう。

##### 1. 応募資格

応募者は、2013年6月1日の時点でJ-SLAの学生会員でなければならない。ただし、共同発表者については、会員でなくてもよい。

##### 2. 募集する研究の領域など

第二言語習得の理論的・実証的研究（学会発足の趣旨を参照してください。）現在進行中の研究でも構いません。

##### 3. 申し込み方法

以下の要領で発表要旨を電子メールで送付する。

件名は「J-SLA2013 abstract」とする

送付先：[bannai@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:bannai@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp)（坂内 昌徳）

発表要旨は、必ず以下の二点を添付ファイルでお送りください。

① 指定の書式に従った発表要旨を **WORD** のフォーマットで保存したもの

② 指定の書式に従った発表要旨を **PDF** で保存したもの

\*不備がある場合、審査に時間を要し結果報告などが遅れることにもなりますので、必ず両方をお送りください。

##### 4. 締め切り

2013年1月31日（木）

## 5. 審査結果の発表

2013 年 2 月末ごろまでに、本人にメールにて報告する。

## 6. 口頭発表の時間について

口頭発表は 30 分で行うこととし、その後に 10 分間の質疑応答の時間を設ける。

## 7. 使用言語：日本語または英語

## 8. 代理発表は認めない。

## 9. 要旨の書式

- (1) 英語のフォントは Century 10.5 pt、日本語のフォントは MS 明朝 10.5 pt を使う。
- (2) 発表の言語と要旨に使用する言語を同一にする。
- (3) 要旨の長さについては、日本語の場合には 1600 字以内、英語の場合には 1000 words 以内とする。なお、図や表を加えてもよいが、最終的な原稿が A4 で 2 枚に収まるようにする。
- (4) 「学生ワークショップにおける口頭発表希望」と明記する。
- (5) 日本語と英語のタイトルを、要旨の最初の部分に記入する。
- (6) 氏名は、要旨には記入しない。
- (7) 「要旨」の最後の部分に、それぞれの長さ（日本語の場合：文字数、英語の場合：語数）を記入する。
- (8) 添付ファイル送付のさい、電子メールの本文に以下のことを明記してください。
  - \* 氏名（日本語） \* 氏名（英語） \* 所属（日本語） \* 所属（英語）
  - \* 郵便番号 \* 住所 \* 電話番号 \* 電子メールアドレス
  - \* 発表言語（日本語か英語のいずれか）

<その他の問い合わせ先>

J-SLA 事務局 柴田 美紀 shibatam@hiroshima-u.ac.jp

電話： (082)424-6430

---

文責：柴田美紀

J-SLA 事務局